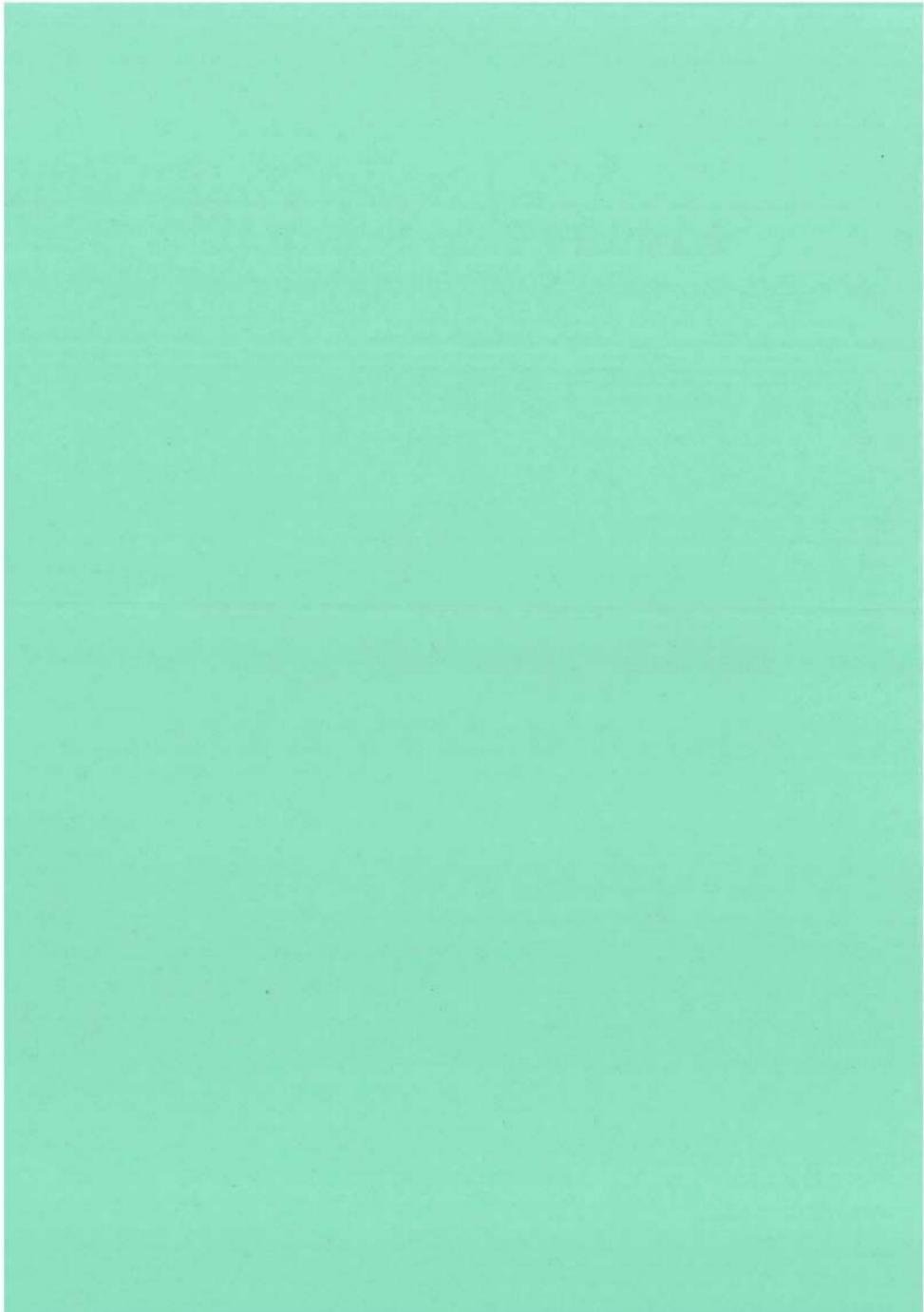


島本町立歴史文化資料館 館報第3号



平成23年9月

島本町立歴史文化資料館



はじめに

楠木正成・正行父子別れの地、桜井駅跡は国の史跡に指定されています。後鳥羽上皇ゆかりの水無瀬離宮跡も全国的に知られたところであります。

これらに加えて島本町には多くの史跡が存在しています。その紹介・普及の担い手として歴史文化資料館が開館し、3年が経ちました。平成22年度は企画展、発掘調査速報展、講演会、体験学習会、資料館コンサートなどの催しを行ってきました。その都度、多くの来館者を迎えることが出来ました。皆様方のおかげと喜んでおります。

島本町文化財保護条例法が制定され、町指定文化財も水無瀬神宮の「水無瀬駒 関連資料」、若山神社の「神像(伝 聖徳太子七歳像)」、宝城庵の「薬師如来立像」と増え、新たな文化財の発掘にがんばってまいります。

また、企画展で新たな資料を公開したり、フィールドワークとして現地へ行くような催しを取り入れていくことなども考えてまいりますと共に、歴史にとどまらず、自然、民俗、地理などの分野にも力を入れ、島本町の文化向上に寄与できる資料館を目指していく所存です。

今後とも、「郷土の歴史、文化、自然の理解」「参加、交流による人のつながり」を大切にして、史資料の収集と整理、展示の充実及び催物の開催に向けて職員一同努力してまいります。皆様方の一層の御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

平成23年8月

島本町立歴史文化資料館
館長 松尾達也

目 次

はじめに	1
講演 「中将棋セミナー」 講師 武田 穂氏	3
展示	
常設展	5
教育週間 秋の企画展 「文化財を守ります」	6
町制施行 70周年 「むかしの風景 写真展」	7
町指定文化財 神像(伝 聖徳太子七歳像)実物展示	7
新春企画展 「しまもとの郷土かるた」原画展	8
民具・農具展 「むかしのくらしと農家のしごと」	8
教育週間特別講演	
「科学の力で文化財を見、そして伝える」 講師 西山 要一 氏	9
事業報告	
布惑らじ講習会	11
歴史文化資料館 企画展・催物一覧	11
入館団体	12
日誌抄録	12
利用状況	13
(寄贈・寄託)	13
受入れ図書	14
調査・報告	
第一小学校に保管されていた瓦についての一考察 帝塚山大学大学院生 木村 友紀	16
町指定文化財一覧	18

講演「中将棋セミナー」

平成 22 年 10 月 16 日（土）

名古屋大学教授

日本中将棋連盟会長 武田 穣 氏



名古屋大学の武田でございます。今日は水無瀬駒ゆかりの島本町で中将棋が少しでも指されて、これから

復興されることを期待して、中将棋のお話をいたします。特に水無瀬神宮の水無瀬家に伝わる象戯図に残る将棋で現在指されているのは、今の将棋と中将棋だけだと思います。ですから、是非皆さんに中将棋を覚えていただきたいと思います。

まず、将棋の起源ということで、中将棋ってどういうものなんだろう。それから駒の動き方をご紹介したいと思います。

もともと将棋というのは、インドで始まったと言われています。インドのチャトランガが全ての起源で、東に行ったものはタイだとマークルック、中国では中国将棋、それから韓国に行ってチャンギ、日本に来て小将棋、今の将棋になります。西に行ったものがアラブ地域などでシャトランジになり、ヨーロッパに行ってチェスになる、と言われております。

チェスと同じように、日本の将棋以外は駒は全て取り捨てです。盤が小さくて駒の数が少ないと引き分けになりやすく、引き分けが多いと指すほうはつまらないで引き分けをなくす方法がいろいろと考えられてきました。一つは盤を大きくして駒数を増やすという方法で、中将棋、さらに大将棋とか大々将棋が開発されました。それから西洋の方でもチェスを大きくしたビッグチェスと言われるもののが各所で指されていた、という記録があります。

いつどのようにして日本の将棋ができたかということは、今のところはつきりとした定説はありません。資料があまりありませんので、推測で言われているケースがほとんどだと思います。

中将棋の場合ですけれども、平安将棋という将棋がありました。これは持駒が使えたのか、取り捨てだったのか不明ですが、たぶん取り捨てだったんだろうと思われています。この平安将棋『二中歴』という文献に書かれてた将棋といわれているものが、大将棋であったというふうに言われています。水無瀬家に伝わった象戯図にも大将棋がでてきております。これは 15×15 の盤です。中将棋の駒はこの中に全部含まれます。

中将棋と大将棋はどちらが古いかというのもいくつもの説があります。今のところ大将棋が先行するという説が有力になっていると考えられています。

これは私の個人的意見ですが、チェスや中将棋のような偶数の盤と今の将棋のような奇数の盤は起源あるいは由来が違うのではないかと思います。日本の普通の将棋は 9×9 です。タイの将棋マークルックは偶数です。 8×8 の将棋は東南アジアから中国南部を伝わってきた将棋である。 9×9 の将棋は中国から入ってきたんじゃないかと、要するに起源・由来が違うのではないかと、考えております。

ただこの中将棋、室町時代にはゲームとしてほぼ完成しておりまして、お公家さんの間で流行しました。それ以降に特に水無瀬家などには中将棋の駒の作製依頼が来たので、中将棋の駒が水無瀬

駒として残っているのだろうと思います。ただ明治以降は、主に関西で流行していたと言われています。大山 15 世名人が書かれた文章によりますと、大山先生のお師匠さんである木見先生が中将棋を指されたので、大山先生は木見先生と中将棋を指したということが書いてあります。

中将棋の面白さについてですが、ある程度上手になった人同士がやると引き分けにならない。それからもう一つ、日本の将棋よりも中将棋のほうが偶数の盤や駒の取り捨て等の点で国際標準に近いということがいえます。海外のチェスのプレーヤーは中将棋を指してみようという人は結構多いです。ヨーロッパやアメリカなどではインターネットのサイトが出来ていて、そこで中将棋を指しているというようなこともあります。そして初心者でも、少し慣れればある程度のゲームになります。

それから、中将棋の指し方の特徴は、序盤が長い。歩をほとんどの列で前へ出していかなければいけないので、全部の歩を出すだけで十二手はかかります。次に、駒の使い方が、互いに交換することが多くなりますので、その時に、価値の低い駒で価値の高い駒を取る、そういう駒得が大事になってきます。もう一つは、盤面が広いので中将棋の場合は全面に戦いが波及するということは少ないです。また、終盤は駒がだんだんなくなってくると、飛車や角という走り駒がなくなってきます。その場合、金将などの駒を 1 マスずつ前へ出して成るということになります。そうすると又、手数がかかります。詰めるときも、通常の場合は、一枚ずつはがしていくかしないとなかなか王手になりません。終盤では、飛車や横行という駒は極めて重要になります。金などの小駒がきて成るのを防ぐために重要です。特に麒麟が成ると獅子になりますし、鳳凰が成ると奔王に成るので、こうした成駒ができると状況が大きく変わります。飛車や横行によって、成ることを防ぐ必要があります。もちろん醉象が成って太子ができると、王が 2 つあることになるので、これも防ぐというのが重要になります。更に進んで、駒枯れ、両方がどんどん駒がなくなつて、王将と王将プラス駒一枚になった時は駒一枚ある方が勝つとルールとしてはなってます。片方が王将プラス一枚でもう片方が王将プラス二枚なら、それは二枚の方の勝ちと考えていいのかどうかはクイズとしてやってみてもなかなか結論がでません。引き分けなどについては、これから実戦譜を基に明文化する必要があると考えています。

もし皆さんが中将棋を指したくなったら、東京と大阪の将棋会館の道場で月一回対局会が行なわれていますので是非顔をだしてみてください。あと年二回、夏と正月にタイトル戦を開催をしております。それから海外に行かれる方がありましたら、ぜひ向こうの方と指してみられたらいいと思います。向こうの方々も日本の指し手と指すというのを楽しみにしているようです。それから、日本将棋連盟のプロの将棋指しの方々もあり中将棋を現代では指しておられません。

10 月 31 日水無瀬神宮でプロ同士が指していただけるということなので、さぞ参考になる棋譜ができるのではないかというふうに期待しております。どうもありがとうございました。

中将棋セミナーでは、スライドを使って中将棋の駒の種類と動きについても、詳しく解説していただきました。

また、セミナーの後には中将棋の模擬対局が行われ、多くの方々に体験していただきました。

展示

常設展 「ひと・もの・みち」

島本町は、大阪府と京都府の境に位置し、桂川、宇治川、木津川の三川合流の地にあります。

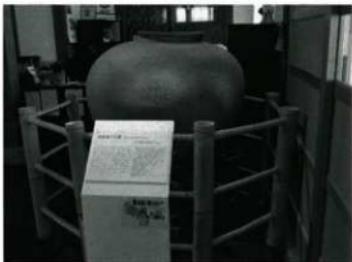
町の中心を西国街道が通り、古来水陸の交通の要衝として栄えてきました。

その街道沿いに当資料館があります。

当資料館では、このような背景を中心に「島本と西国街道 – ひと もの みち –」をテーマに展示をすすめてまいります。

資料館入口すぐに常設展示しております大甕は、奈良時代（約 1300 年前）のもので、淀川に流れ込む水無瀬川の河口で出土しました。ほぼ完全な形で出土することは、全国的にもめずらしいことです。

島本町の豊かな自然と文化、そして歴史をお楽し
みください。



資料館のマスコット「かん太」です



開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日休館）

12 月 29 日～1 月 3 日

特別展準備期間

教育週間 秋の企画展

「文化財を守ります」

展示期間：平成22年11月10日（水）～12月12日（日）

体験学習：11月14日（日）

科学的保存処理について

奈良大学の学生が説明

講演会：11月23日（火）午後2時～4時

「科学の力で文化財を見、そして伝える」

奈良大学 文化財学科 西山要一教授

遺跡から出土し、錆や腐食のため展示できなかった遺物がたくさんあります。それらの遺物を奈良大学文化財学科に保存処理を依頼し、同時に先生や学生さんたちの協力を得て、文化財の保存科学についての展示を行いました。

体験学習では赤外線カメラや電子顕微鏡などを使って普段では見ることが出来ない遺物の細部を検証しました。また、学生たちによる展示の説明など、来館者と一緒に企画展を行うことができました。

保存科学についての説明を、熱心にメモする中学生の姿が印象的でした。



準備の様子



体験学習



体験学習



見学風景

町制施行 70 周年

「むかしの風景 写真展」

展示期間：平成 22 年 10 月 19 日（火）～11 月 7 日（日）

町制施行 70 周年に合せて、資料館が所蔵する資料と住民の皆様から提供いただいた資料とともに、時代の変化に伴い町の発展や風景の移り変わりを辿って頂ける写真展を企画しました。展示室に「島本町全景・パノラマ風景」や「町の記録」「史跡」など、各テーマを設定たくさん写真資料を展示しました。

来館者のなかには、改めて町の歴史にふれ関心を持たれる方やむかしを懐かしむ方々が多く訪れました。



「島本町の施設関連」「昭和の景色」



「島本町全景・パノラマ風景」

町指定文化財 神像（伝 聖徳太子七歳像）実物展示

展示期間：平成 22 年 11 月 7 日（日）

平成 22 年度に町指定文化財第 2 号に指定された若山神社の「神像（伝 聖徳太子七歳像）」の実物展示をおこないました。

現在、大阪市立美術館に寄託されている神像を借出していただき、来館者の皆様にご覧いただきました。本町の貴重な文化財の実物を間近で見ていただける様に展示しました。多くの方が資料館を訪れ、感動されました。

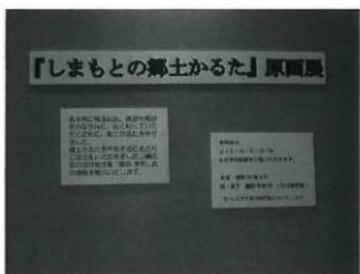


実物展示の様子

新春企画展

「しまもとの郷土かるた」原画展

平成 23 年 1 月 5 日（水）～平成 23 年 1 月 30 日（日）



織細で美しく描かれた切絵とともに、町の歴史や伝説を広く知っていただければと思います。

資料館が正式開館して以来、恒例となりました新春企画「しまもとの郷土かるた」原画展を実施しました。

平成 22 年度は「よ」～「ね」の 6 枚の絵札をとりあげました。



民具・農具展

「むかしのくらしと農家のしごと」

平成 23 年 2 月 1 日（火）～平成 23 年 3 月 6 日（日）

毎年この季節に、昔使われていた民具や農具を展示し、むかしの暮らしと農業について紹介しています。

今年度も多くの方に民具を体験していただくため、「縄ない機」・「唐箕」・「石臼」・昭和の「足踏み式ミシン」の体験コーナーを設けました。毎年、社



会科の体験学習に訪れる町内四校の小学 3 年生も積極的に各コーナーを体験し、楽しそうな様子が伺えました。

昔の人たちの知恵とモノを大切に使うこころを知り貴重な体験になったのではないでしょか。

教育週間特別講演

「科学の力で文化財を見、そして伝える」

平成22年11月23日（祝）

奈良大学文化財学科教授

西山 要一 氏



今日は『科学の力で文化財を見、そして伝える』が大きなテーマです。

「X線透過写真から古代の人びとの願いを知る—吉備塚古墳の象嵌大刀」「赤外線写真・年輪から古代の人びとの技を知る—百万塔」「何を未来に伝えるべきか—河島英五さんの壁画」この3つに小テーマをしぼり話を進めていきまして、みなさんと一緒に文化財はどうして大切に保存されてきたのか、これから守っていかなければならないのか、未来に伝えていかなければならないのかとかということを考えていきたいと思います。

さて、「X線透過写真から古代の人びとの願いを知る—吉備塚古墳の象嵌大刀」ということなんですが、国立奈良教育大学の構内に吉備塚古墳があります。5~6年前になりますけれどもこの吉備塚古墳を発掘調査して木棺の痕跡が見つかったんです。この埋葬施設には刀、鐘、馬具などあります。そして、この刀に注目してほしいんです。三累環頭大刀と言いまして、三つの輪っかが繋がった環状の刀の飾りの大きな刀ですね。こういう形の刀そのものは珍しいんです。輪の中に人というか蛸のような形をした人形(ひとがた)がありますけれども、これは初めてです。中国や韓国を捜してみましたけれども、これと同じようなものはありません。ですから今のところ世界で一つしかない形なんです。さて、刀の鞘や柄の部分が非常に良く残っておりますので、レントゲンをとってみました。そうしましたら環の中の人形には手、足、体、顔そして口と目がはっきりと作られてるというのがわかります。折角だからと刀全体を撮ってみると、白い線の文様、実は象嵌文様があるということがわかりました。この吉備塚古墳の刀の文様の龍形と虎形、花形それからその尻尾と羽がある人（羽人）は、仙人の住む世界、永遠の生命と食べ物に腐心することもない仙界、これは道教の神仙思想ですね、それを目指して進んでいっている、そういう情景を表している模様です。幸福になれますようにという願いがこめられたものです。ですから、この刀は文字で書かれた以上の素晴らしい象嵌文様による表現と言っていいんじゃないかなと思います。これもレントゲン写真を撮影したからこそわかったということです。

さて、二つ目の話題の百万塔です。法隆寺の宝物館にたくさん並んでいるのをご覧になったことがあるかと思います。高さ24.5cm位でしょうか。木製の塔ですね。相輪を外すと孔があり、この孔の中にはお経が入っています。お経を巻いて納めて、蓋をしている。表面に白土という白い絵具が残っていますけれども、元々は全面真っ白に塗られていました。この百万塔については続日本紀にでています。「天皇八年乱平ぎてすなわち弘願を發し三重の小塔、一百万基を造らしむ」と書いてあります。天皇八年というのは称徳天皇の天平宝字八年(764年)のことです。惠美押勝(藤原仲麻呂)の乱を治めたというのが「乱平ぎて」にあたります。それをきっかけに押勝の靈をなぐさめ、平安の願い事をこめて三重の小塔、百万塔を造らせたということなんです。百万塔の底を赤外線写

真で見たら、何が見えますか。皆さんに解いてもらおうと思いまして本物を持って参りました。実際にご覧いただきますのは赤外線テレビの画像なんですが、スライドの画面は赤外線写真で撮ったものです。左側には大伴石勝(おおとも いわかつ)と書いてあります。平城京に木工寮という木の細工をする役職があり、その工房に属する大伴石勝が百万塔をクロロで造りましたと記しています。右側に記されている云、二、六、卅は神護景雲 2年 6月 30日のことで、大伴石勝が百万塔を造った日を示します。でもこれは仕上げに白い絵具を塗りますのでこういう書付はわからなくなります。ですから最近までこういうものが書かれているとわからなかつたんです。ところが赤外線テレビって不思議でしょ。肉眼では見えないものがはっきりと見える。こういう調査をしますと、法隆寺に 7000 基あるのだから、後の時代に真似して造ったものが混ざっているに違いないという話だったんですが、それはないということがわかつてきました。百万塔は木製ですから裏底を見ると年輪が隠されています。その年輪を調べると、この木が 700~750 年頃伐採され製作されたのがわかりました。これを年輪年代法といいます。こういう年輪年代法という新しい方法を使ったり、あるいは赤外線写真を撮ってみると古代の人たちの生き様といいますか、工夫や、技術、そういうものも見えてくるのです。

さて、最後の話題は「何を未来に伝えるべきか—河島英五さんの壁画保存」です。河島英五さんが絵を描いたのは大阪の宗衛門町で奥さんが経営していた喫茶店です。十年前くらいでしょうか、大きな火事があり焼けてしまいました。その焼けた喫茶店の壁に絵が描いてあり、消火の水がかかったりして痛んでたんですね。この時には河島英五さんは亡くなつたんですが、奥さんと息子さんがこの絵を何とか残したいと思い私に相談されました。表面の絵がある部分が壊れないように、表面に和紙をあてがい、スポンジを重ねてその上に合板をネジでとめて養生し、周囲を切ついたんですね。そして 30 面くらい切り取ったのを持って帰り、大学では、文化財の保存科学実習の資料として喜んで保存修復しました。その方法は、表面のモルタルが火をうけて非常に脆く弱くなっているので合成樹脂をしみこませます。これが乾くと強くなる、丈夫になる。そういう作業です。全部仕上げて奥さんと息子さんに渡しました。

さて、文化財の保存を考えましょう。皆さんは百万塔や吉備塚古墳鉄剣をご覧になつたら、これは文化財やなあと納得されますよね。では、歌手 河島英五さんが壁にかいた絵がどれだけの価値があるのか。文化財の保存を考えますとこういう問題にいきあたります。つまり 1200 年、1500 年前のものを残していく、これは大切に先祖が残してくれたものであるし、歴史を振り返るために大事なものやから、私たちの世代できっちりと保存して後世に伝えていかなければ。発掘した遺物もそうですね。これは誰しもが認めてることだと思うんですね。じゃあ、今現在私たちが生活している中で大事なものを残しているやろか。河島英五さんの絵もそのひとつだと思います。私たちの身近にはいろんな文化財があります。ちょっと大きさにいうなら、ひとりひとりが「私にとつて大事なものは文化財」と思ってもいいんですね。そして、大切にする気持ちが大事なんやと思うんですね。保存科学や修復は実際に樹脂を使って保存処理したり、文化財を残すための技術的なことはできるけれども、50 年先、100 年先まで保存して大切にしていくことが大事なんじゃないか。ですから、一人一人が文化財を大事にしていくそういう考えを広めることができたらなあ、と思っています。今日のお話はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

事業報告

「布わらじ講習会」

平成 23 年 3 月 6 日(日)午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「むかしのくらしと農家のしごと」展の開催に併せて「布わらじを作つてみませんか」と広報で募集いたしましたところ、申し込み初日前半で定員に達し、補欠を受けるほどの盛況でした。



参加者のみなさんは、それぞれの素材を持ち寄られ、時間内に完成された方、片方のみ、交々でしたが、資料館初の試みに、ご参加いただきありがとうございました。

平成 22 年度 歴史文化資料館 企画展・催物一覧（教育委員会主催）

日時・期間	企画展
4月24日(土)～5月30日(日)	ミニ展示 「広瀬遺跡発掘調査速報展」
6月 1日(火)～6月27日(日)	ミニ展示 町指定文化財(第2号) 「神像(伝 聖徳太子七歳像)」写真パネル展示
7月 6日(火)～7月19日(祝)	ミニ展示 「島本町に残る戊辰戦争」
8月 3日(火)～10月 3日(日)	ミニ展示 「EXPO'70」
10月 5日(火)～10月17日(日)	ミニ展示 「島本の戊辰戦争」
10月15日(金)～2月27日(日)	平成22年度地域伝統文化総合活性化事業 「水無瀬駒 関連資料」展示会(～2/27)
10月19日(火)～11月 7日(日)	町制施行70周年企画展 「むかしの風景 写真展」
11月 7日(日)	町制施行70周年記念 町指定文化財第2号「神像(伝 聖徳太子七歳像)」実物展示
11月10日(水)～12月12日(日)	教育週間企画展 「文化財を守ります」
11月14日(日)	「文化財を守ります」保存処理体験学習
12月14日(火)～1月30日(日)	ミニ展示 「島本の神事」
1月 5日(水)～1月30日(日)	新春企画展 「しまもとの郷土かるた原画展」
2月 1日(火)～3月 6日(日)	民具・農具展 「むかしのくらしと農家のしごと展」

日時・期間	催物
4月18日(日)	第15回コンサート 「ジョイントコンサート」
5月16日(日)	第16回コンサート 「フルート演奏」
6月 5日(土)	第17回コンサート 「ギターリサイタル」
9月 4日(土)	第18回コンサート 「藤原ファミリエ・バロック・アンサンブル」
10月16日(土)	平成22年度地域伝統文化総合活性化事業 「中将棋セミナー」 武田 穣 氏
11月23日(祝)	教育週間特別講演会 「科学の力で文化財を見、そして伝える」 西山 要一 氏
12月19日(日)	第19回コンサート 「ensemble Bella Notte」
3月 6日(日)	布わらじ講習会
3月27日(日)	第20回コンサート 「下岡万佑子ソプラノサイタル」

入館団体 平成22年度(2010)	
4月 6日	史友会
4月14日	大阪府高齢者大学 大阪同好会 パナソニック松愛会 大阪市内支部
4月15日	ふるさと島本案内ボランティア
5月 9日	城陽市今池コミュニティセンター
5月12日	高槻市老人クラブ
5月14日	末長会
6月 6日	高槻を歩こう会
6月 9日	地歴探訪クラブ
6月12日	吹田市ハイキングクラブ 乙訓の文化遺産を守る会
6月27日	高槻市ハイキングクラブ 懇親旅行(西国街道を歩く)
9月12日	紀の川市打田歩こう会
10月 6日	島本町第四地区住民委員会
10月21日	老人会
10月29日	山科中学校同窓会
11月 7日	日本史を学ぶオブショングの会
11月10日	郵政版神運転者共助会ハイキングクラブ
11月12日	西国街道ハイクツーリズム
11月13日	JT OBの会
11月18日	箕面市立郷土資料館主催「西国街道を歩く」
11月20日	吹田操車場跡保存する会
11月23日	高槻地区巡回自治会
12月11日	ふるさと島本案内ボランティア
1月 8日	大阪シティアカデミー
1月 9日	史達美術同好会
1月13日	大阪シティアカデミー
1月15日	大阪シティアカデミー
1月18日	奈良バスハイク
1月19日	大阪シティアカデミー
1月22日	奈良バスハイク
1月25日	歩ぐ会
1月28日	金羅会
2月 1日	町立第一小学校 3年生
2月 4日	町立第三小学校 3年生
2月 8日	町立第四小学校 3年生 淀川自然クラブ
2月16日	大阪文学会
2月18日	町立第二小学校 3年生
3月 6日	茨木歩こう会

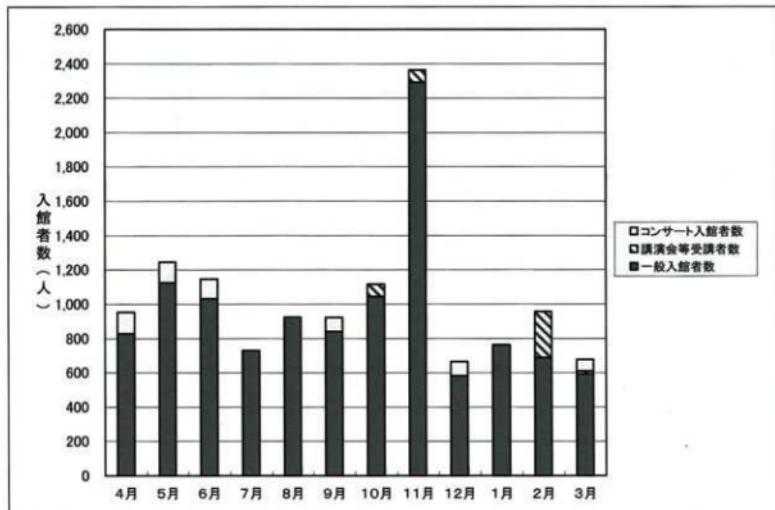
年間 41団体入館

日誌抄録 平成22年度(2010)	
4月15日	文化推進委員会 第1回
4月18日	第15回コンサート「ジョイントコンサート」
4月24日	広瀬遺跡発掘調査連絡会(～5/30)
4月29日	公募による発表「詩吟二十会」
5月 1日	公募による展示「緑と水を守る会」(～30日)
5月16日	第16回コンサート「フルート演奏」 JCOM取材
5月21日	島本町歴史文化資料館懇親会 第1回
5月28日	資料館ボランティア打ち合わせ
6月 1日	町指定文化財(第2号) 「神像(伝 塩船太子七歳像)」写真パネル展示(～27日)
6月 5日	第17回コンサート「ギターリサイタル」
6月18日	公募による展示「文化協会 俳句部」(～26日)
6月22日	資料館ボランティア打ち合わせ
7月 2日	七夕飾りの設置
7月 6日	企画展開催(～19日)「島本町に残る戊辰戦争」 資料館ボランティア打ち合わせ
7月22日	文化推進委員会 第2回
8月 3日	ミニ企画展 EXPO'70 (～10/3)
8月 4日	島本町歴史文化資料館懇親会 第2回
8月 5日	資料館ボランティア打ち合わせ
8月21日	かべや廊のタペ
8月31日	ふるさと島本案内ボランティア研修
9月 4日	第18回コンサート 「藤原フジエ・パック・アンサンブル」
9月29日	資料館ボランティア研修
10月 5日	企画展開催(～17日)「島本の戊辰戦争」
10月14日	公募による発表「婦人協会重誼グーブ」
10月15日	平成22年度地域伝統文化総合活性化事業 「水無瀬駒 開道資料」展示会(～2/27)
10月16日	平成22年度地域伝統文化総合活性化事業 「中将棋セミナー」講演会 武田 稔氏
10月19日	町制施行70周年企画展 「むかしの風景 写真展」(～11/7)
11月 7日	町制施行70周年記念 町指定文化財第2号「神像(伝 塩船太子七歳像)」实物展示
11月10日	町制施行70周年企画展 「文化財を守ります」(～12/12)
11月14日	「文化財を守ります」体験学習
11月18日	文化推進委員会 第3回
11月23日	町制施行70周年企画講演会 「科学の力で文化財を見、そして伝える」 西山 要一 氏
12月 1日	島本町歴史文化資料館懇親会 第3回
12月14日	企画展開催(～1/30)「島本の神事」
12月16日	消防訓練
12月19日	第19回コンサート「ensemble Bella Notte」
1月 5日	企画展開催(～30日)「しまとの郷十からじ農家のしごと展」
2月 11日	企画展開催(～3/6)「むかしのくらしと農家のしごと展」
2月 3日	資料館ボランティア研修
2月10日	文化推進委員会 第4回 ケーブルテレビ取材
2月11日	広瀬遺跡発掘調査現地説明会
3月 6日	布わらじ講習会
3月 8日	公募による展示「島本イルミネーション写真展」(～31日)
3月16日	島本町歴史文化資料館懇親会 第4回
3月20日	島本町の民家 公開第2弾 「昭和の民家」一般公開
3月27日	第20回コンサート「ト岡万佑子ソプラノサイタル」

利用状況

平成 22 年度入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般入館者数	828	1,126	1,032	730	925	840	1,045	2,292	582	764	688	594	11,446
講演会等受講者数							71	71			268	15	425
コンサート入館者数	125	120	115			82			83		68	68	593
総入館者数	953	1,246	1,147	730	925	922	1,116	2,363	665	764	956	677	12,464



寄託・寄贈

平成 22 年度は 469 点の寄託・寄贈を受けました。ありがとうございました。

内容	点数	内容	点数
けた・ぞうり・鏡など	18 点	看板・秤・算盤など	21 点
陶器・膳・椀など	56 点	氏子札	8 点
筆筒・屏風・時計など	31 点	将棋盤・将棋駒・碁石など	5 点
石臼・農具・カンナなど	33 点	雛人形	4 点
トランク・切手など	8 点	文書類・万博パンフレットなど	285 点
合計			469 点

受入れ図書

発行	刊行物名	発行	刊行物名
滋賀県立文化財調査研究会	昭和 滋本史年表 第八号	文化財調査事務所年報第14号	
滋賀県立文化財調査研究会	平成21年度発掘調査概報 併人住宅建築に伴う発掘調査報告書	昭和通り - 都市計画道路堺港大堀線事業に伴う発掘調査	
市原市教育委員会	発掘いはらはんの跡跡 3号	大堀通跡Ⅰ - 都市計画道路堺港大堀線事業に伴う発掘調査	
石川考古学研究会	白山信仰と道谷寺跡 - 加賀市宇奈谷町・榮谷町及び小松崎町・道谷町の考古学的調査報告書	大堀通跡Ⅱ - 道谷寺跡北遺跡 I - なむれ水みらいセンター - 隣接に伴う発掘調査	
東広島市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概要 第60号 - 第65号	若宮道跡 - 泉佐野駅前交番新築工事に伴う発掘調査	
東広島市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概要 平成21年度	高岡神社西遺跡 - 西宮橋付近総合整備事業(河内長野市東地区)に伴う発掘調査	
東広島市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査報告書 68 上町通跡 08-3区の調査	寺田遺跡Ⅰ - 市谷寺跡泉田住宅第2床廻に替えに伴う発掘調査	
東大津市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概報28	安政城跡Ⅱ	
東大津市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概報29	衣ヶ谷古墳 - 一般府道春木岸田田舎改良事業に伴う発掘調査	
21世紀研究 vol.7		田尻遺跡 - 一般府道新家川田根歩道設置工事に伴う発掘調査	
池田市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概要 2009年度	相模中町遺跡Ⅲ - 羽音谷町水東住宅地に替え工事に伴う発掘調査	
池田市立歴史民俗資料館	古墳時代の猪名川流域 - 猪名川流域に移された畿内伝統の変動	紙井通跡Ⅲ - 伏呂西振井住家建替えに伴う発掘調査	
和泉市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概報20	千里丘遺跡Ⅱ - 都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う発掘	
和泉市史編さん委員会	史記要集第17集 池田谷地域の開拓と生活	大山崎町文化情報2008	
和泉市史編さん委員会	第03集 八尾市久宝寺遺跡 - 稲屋川流域下水道中央南端地盤(一)	大山崎町埋蔵文化財調査報告書 第39集 - 平成21年度園庭跡地免許申請手続概要	
和泉市史編さん委員会	第204集 松原市三宅西遺跡Ⅱ - 都市計画道路大和川線外壁に伴う報告書	大山崎町歴史資料館 館報 第16号 2009	
和泉市史編さん委員会	第007集 交野市町部遺跡Ⅰ - 一般国道1号バイパス(大阪北環状線)・第二京阪道路整備に伴う報告書	第18回企画展「幕末・維新の頃の大山崎	
和泉市史編さん委員会	第206集 八尾市中野松原 - 大阪府営八尾駅松(第2期)住宅建設工事に伴う報告書	園芸 朝内長野市史	
和泉市史編さん委員会	第009集 犬上小野松原跡 - 大阪府営犬上駅新築工事小牧住宅民家プロジェクトに伴う小野松原上小野松原跡報告書	河内長野市埋蔵文化財調査報告書XIV 春多町道路・高岡遺跡	
和泉市史編さん委員会	研究調査報告 第7集	かづさぎ町教育委員会 平成20年度 かづさぎ町埋蔵文化財調査年報	
和泉市史編さん委員会	交野市 上の川の道跡Ⅳ	(CQ) 支配財年報 - 2007年度・2008年度 -	
和泉市史編さん委員会	御所遺跡Ⅲ 有池遺跡 - 上郡松原の上の山道跡 - 一般国道1号バイパス・第二京阪道路建設に伴う報告書	「世界に一つ 加東遺跡」ガイドブック	
和泉市史編さん委員会	柳原 大井寺跡 - 金剛山口跡	加東市内遺跡総括調査概要 - 平成20年度国庫補助企画室に係る調査~	
和泉市史編さん委員会	和泉市 菖蒲川遺跡(復興) 京阪ホンダ埋蔵遺工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	関西大学博物館 関西大学博物館年報 虹編 No.60-61	
財团法人大阪府文化財センター	和泉市 大和川今治遺跡Ⅲ - 都市計画道路人と川縦横統計に伴う報告書	「貝塚市」の70年『編集だより wave vol.1	
財团法人大阪府文化財センター	和泉市内遺跡群 - 都市計画道路人と川縦横外壁に伴う報告書	かづさぎ町文化財だより アンプレス41号 - 43号	
財团法人大阪府文化財センター	東風見分 - 3分野	貝塚市文化財年報	
財团法人大阪府文化財センター	和泉市西瀬戸 - 長浜川北側下河原段良瓦	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第78集 11号市直轄事業調査概要32	
財团法人大阪府文化財センター	和泉市西瀬戸 - 長浜川北側下河原段良瓦	要家文書に見る岸和田藩領の村とその生活	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡V - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	平成21年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡VI - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	交野市教育委員会・附属公民館・附属公民館・附属公民館・附属公民館	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡VII - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	交野市歴史マップ	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡VIII - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	交野市文化財だより 第20号	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡IX - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	稲園に残された柏原の村々	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡X - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	野尻鹿から大原農へ - 四方の終末町集落二・大和川にびこへ	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡XI - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	柏原市立歴史資料館 館報 第22号-2009年度-	
交野市教育委員会	吹田操車場遺跡XII - 吹田操車場工事に伴う発掘調査	柏原市立歴史資料館 館報 No.7	
大阪狭山市教育委員会	大阪狭山市文化財調査報告書37 大阪狭山市内遺跡群発掘調査報告書	和泉市立文化震災 第22回 便用費改修費開式式典と歴史文化祭(2010年4月) - 初歩先生	
大阪大学文化研究所考古学研究室	長尾山古墳遺跡調査報告書	平成21年度歴史講会概要	
大阪市立大学日本史研究室	大阪市立大学 木子山古墳の発掘調査報告書	京都府立大学 文化震災 第22回 牧野寺貴賞改修式典と歴史文化祭(2010年4月) - 初歩先生	
大阪府教育委員会	奈良原山古墳 - 木子山古墳の発掘調査報告書	京都府立大学 文化震災 第22回 牧野寺貴賞改修式典と歴史文化祭(2010年4月) - 初歩先生	
大阪府教育委員会	奈良原山II 安倍川ダム建設事業に伴う奈良原古墳群の調査	京都府立大学 文字館	
大阪府教育委員会	山城廬跡発掘調査概要 - 将門寺跡等整備事業「山城廬跡改修工事」に伴う発掘調査	文化財調査報告書2009 牧野寺貴賞改修式典と歴史文化祭(2010年4月) - 初歩先生	
大阪府教育委員会	九重神社跡 - 市谷坂口牧野寺改修工事兼第5席工事に伴う調査	京都府立大学 文字館研究会	

発行	刊行物名		
京都市文化市民局	京都市内遺跡試掘調査報告 平成21年度 京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度 京都市内遺跡発掘調査報告 平成21年度 平成21年度 京都市埋蔵文化財重要部品候補選定作業報告書	豊中市教育委員会 長岡京市 教育委員会 独立行政法人 国立文化財機構 独立行政法人 国立文化財機構 奈良 文化財研究所	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成22年度 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第55冊 東山古墳第10次調査概要 第56冊 第57冊 ふるさとの記憶Ⅰ 上海印寺地区一 第二回企画展図録 篠原寺村今むかし 独立行政法人 国立文化財機構 概要 平成22年度 奈良文化財研究所概要 2009 埋蔵文化財ニュース 138-141
財团法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報 第111号-第113号 京都府遺跡調査報告書 第140冊 京都府遺跡調査報告書 第141冊 第24回 小さな届覧会 平成19年度京都府内遺跡発掘調査成果追贈	独立行政法人 国立文化財機構 独立行政法人 国立文化 財機構 奈良 文化財研究所	独立行政法人 国立文化財機構 概要 平成22年度 奈良文化財研究所概要 2009 埋蔵文化財ニュース 138-141
熊取町教育委員会	第59集 野川飛鳥Ⅰ・II・III・IV 飛鳥調査報告書 第52集 熊取町飛鳥跡発掘調査報告書 第XIV		古代瓦研究 日・山田寺式軒瓦の成立と展開 古代瓦研究 曲・曲屋式瓦とその成立と展開 古墳時代の瓦と瓦器の研究 第一回 古墳文書・瓦圓文様瓦と瓦文丸瓦の展開 古代瓦研究V - 重井進幸大村丸瓦の展開 - 古代瓦研究 VI -藤原宮式軒瓦の展開 - 古代東アジアにおける造瓦技術の伝播と伝播 科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書
神戸市教育委員会	平成22年度夏季企画展 中央の港港湾都市神戸 平成22年度秋季企画展 王の誕生と前方後円墳		奈良文化財研究所
堺市教育委員会	史跡土壇整備完成記念講演会記録集 墓の跡 土壇と行基 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第130冊 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第131冊 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第132冊 百舌鳥古墳群の解説3 平成21年度国庫補助事業発掘調査報告書1 平成21年度国庫補助事業発掘調査報告書2	(財)日本古事記科学振興 財團 和の文化 株式会社簡易鋼管設計 コンサルタント 社団法人 日本 工芸会会員支援 人間文化研究機関國立民族学博物館 能楽文化教育委員会 阪南市教育委員会	月刊みんぱく 2010年4月号-12月号 第28回 平成21年度 丹野町埋蔵文化財調査概要 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 第XVIII
堺市博物館	パノラマ地図セレクション 一吉田初三郎の世界ー	財团法人 枚方市 文化財研究調査会/ 枚方市教育委員会	枚方市文化財調査報告 第60集 椿葉台塙場(本編)
大阪府立 箕面山博物館	平成22年度秋季企画展 古代西除川沿いの集落景観		櫻丘台塙場-京都で守る暮らすの隠門- 特別史跡 百濟寺跡 平成21年度改修調査概要
御前学立大学 人間文化学部	人間文化 vol.27- vol.29	枚方市教育委員会	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要2009
吹田市教育委員会	吹田市埋蔵文化財調査報告書1 平成21(2009)年度埋蔵文化財企画調査概要	東大阪市 教育委員会	おゆみ野見見 夏大阪城の通路アドベンチャー 丁木須多伊賀延発掘調査報告書 平成21年度 河原池底古生宅跡・桂鶴居跡保存修復事業報告書 東大阪市埋蔵文化財調査報告書 第一平成21年度
吹田市立博物館	「さくらや」博物館だより 第41号 「さくらや」や「吹田」の本編	米原市教育委員会	平成22年度特別展示 陶器窯が訪る大阪と地域との交流
泉南市教育委員会	道頓堀発掘調査報告書 第XVIII 文化財調査報告書50集	東大阪市立 郷土博物館	祭調査会の工作で鬼塚港純潔御殿 国宝、重文文化財(美術工芸品)の所有者のための手引き こんな時どうしたらいいの?
高石市教育委員会	文化財調査概要2009-1 大瀬遺跡への発掘調査概要		米原市文化財ニュース 佐加木 第30号-第32号 港区教育委員会
高槻市教育委員会	たかつき文化遺産地図 安南遺跡 - 平成21年度調査調査速報 -	文化庁文化財部	おゆみ野見見 夏大阪城の通路アドベンチャー 丁木須多伊賀延発掘調査報告書 平成21年度 河原池底古生宅跡・桂鶴居跡保存修復事業報告書 東大阪市埋蔵文化財調査報告書 第一平成21年度
高槻市立 しづみと誕生館	第16回企画展きらぐ合符アート川口コレクション名品展 平成22年度秋冬季企画展 京都のめぐら雄羅と高麗 - 黒船来航から鳥羽・伏見の戰いで -	港区教育委員会	港區台塙場-京都で守る暮らすの隠門- 特別史跡 百濟寺跡 平成22年度改修調査概要 櫻橋市埋蔵文化財調査報告書 櫻橋市埋蔵文化財調査報告書
泉南郡田尻町 教育委員会	田尻町文化財調査報告書第18集 田尻町内遺跡群発掘調査概要11	港区立 港郷土資料館	櫻橋土資源館 展示会-2-平成22年度版(2008年度版) 平成22年度特別展/江戸団の世界
太子町立竹内街道歴史資料館	太子町立竹内街歴史資料館 館報(第16号)	美浜町教育委員会	與道寺庭寺と古代裁縫 ~古代若狭の鉢とマツリ~
大東市教育委員会	埋蔵文化財調査報告第30集 平野屋新田会所跡 調査 概要報告書 歴史散歩道大東	大阪府立 弥生文化博物館	仮面の考課会 平成22年度春季企画展 平成21年春 大阪府立弥生・古代文化博物館要覧
大東市立 歴史民俗資料館	平成22年度企画展 舞らしのなまの地域遺産 平成22年度特別展 神社探訪-砧墓穴	大阪府立弥生文化博物館/九州県立博物館	平成22年度秋季特別展 邦馬台古墳一九州と近畿 - 大正明治初期近畿地方の風土調査報告書
大阪府立近畿博物館	大阪見立云々飛鳥物語 説明1 平成22年度春季特別展 織田大氏の時代-百舌鳥・古市古墳群の特徴と新時代の墓葬計 平成22年度秋季特別展 飯とヤマト王座 邦馬台古墳百舌鳥 古市古墳群の時代- 平成22年度冬季特別展 おおさかー大阪府発掘 遺跡と歴史	大和高田市 教育委員会	土塁遺跡 中和の新道路建設改修工事に伴う埋蔵文化財 調査調査 八頭町教育委員会/枚 式古墳鳥山組 平成22年度春季企画展 文化財調査報告書5 八頭町八頭山・八頭町・奈良糸・西の 道跡跡日 王東古墳跡調査認定発掘調査(第1~3次)報告書
帝塚山大学 考古学研究所	帝塚山大学考古学実習研究報告文集 帝塚山大学附風博物館品目録 考古 I	八尾市教育委員会	備前遺跡(第3次)発掘調査報告書 空の上の歴史東西・島安千規 八尾市埋蔵文化財 田嶋由佳生住宅保存改修報告書 文化財調査報告61 平成21年度国庫補助事業 八尾市内 遺跡平成21年度発掘調査報告書 文化財調査報告62 平成21年度国庫補助 高安古墳群等 調査事業、高安古墳群調査報告書 文化財調査報告63 八尾市指定文化財 亂敷寺第豪門門 西長屋・東長屋・渡廊解体修理報告書 平成21年度春季企画展 前編案内 空の中央へ-我々の記憶立川 文化財記録11 高安古墳シボウム記録集2
富田林市 教育委員会	喜志西遺跡Ⅲ 平成21年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書		
豊中市教育委員会	文化財ニュース 豊中 No.35-No.36 豊中市原城跡史跡建物保存及び整備工事報告書 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成21年度	八尾市教育委員会	

調査・報告

第一小学校に保管されていた瓦についての一考察

帝塚山大学大学院生 木村友紀

島本町立第一小学校は島本町埋蔵文化財包蔵地「広瀬遺跡」の中にあり、平成元年に実施したプール建設に伴う発掘調査では、多くの遺構や土器が出土した。以前から大きな瓦を保管していると、教頭より連絡があり拝見すると完形品の軒平瓦と新しい時代の飾り瓦が一緒にあった。

以下は保管されていた軒丸瓦についての考察である。

軒平瓦について

この軒平瓦の文様は半截花文であり、中心飾りは半円状の中房を中心に置き、その周りに弁端に切り込みの入った花弁を五枚配したものである。中心飾りの上方から左右に唐草が伸び、二回反転し、唐草の先端付近には花弁状のものを置く。全長 32.0cm、広端幅 23.1cm、狭端幅 20.2cm と広端幅と狭端幅の差が小さく、長方形に近い形を成している。平瓦部凹面はやや粗い布目痕を明瞭に残し、凸面は無文の叩き板によってタタキを行なった後、ナデを行なう。瓦当部上縁・瓦当部下縁・顎後縁の面取りは行なわれていない。焼成は良好で硬質、色調は灰白色を呈す。胎土は緻密であるが、0.5cm 以下の石英を多く含む。完形品であるため、平瓦部と瓦当部の接合技法を断面から観察することはできなかった。狭端面には数条の工具痕を残すが、瓦の大きさを切り揃える際のヘラ切り痕であろうか。

平成 21 年度以降の広瀬遺跡の発掘調査(以下、調査と記す)では、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮と同時代に関連する建物跡と考えられる遺構を検出し、その建物跡に使用されたと考えられる多くの瓦が出土した。第一小学校は調査地に近接しており、保管されていた瓦(以下、本資料と記す)がもし第一小学校付近で採集されたものであるならば、本資料も水無瀬離宮に関連する建物で使用されていた可能性が高いと考えられる。しかし、調査で出土した軒平瓦の文様は剣頭文・唐草文を中心としており、本資料のような半截花文のものは出土していない。また、全長も調査で出土したものが 20.0cm 前後であるのに対して、本資料は 32.0cm と明確に法量が異なっている。出土した瓦のほとんどは、文様・法量・瓦当部の成形技法・各部の調整技法から京都産のものであると考えられるが、本資料の文様の類例は京都産の瓦ではなく、平安時代末から鎌倉時代初頭の播磨産の瓦に見られる。また、鳥羽離宮金剛心院跡で出土した播磨産の平瓦は法量によって 3 種に分類されているが、その中でも中型品である平瓦 B は全長が平均 32.7cm と数値が近く、平瓦 B の半数は、本資料と同様に、無文タタキにより調整されている。これらのことから、本資料も播磨産の可能性が高いと考えられる。

院政期の離宮跡の大きな特徴として、京都産の瓦だけでなく、丹波・大和・播磨・尾張・讃岐といった様々な国で生産した瓦が出土する点が挙げられ、調査でも、ほとんどの瓦は京都産のものであるが、和泉系の連珠文軒平瓦も 2 点出土している。このことは水無瀬離宮が、他の院政期の離宮跡と異なり、造営された場所が京都ではなく攝津という立地上の違いから、在地で生産された瓦が混

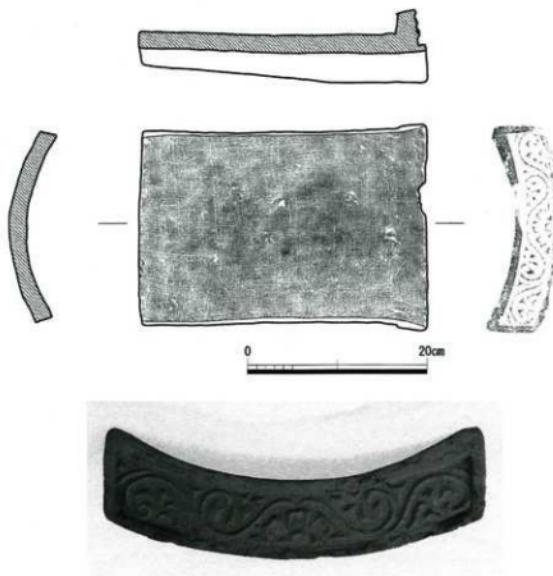
入した可能性も考えることができる。しかし、本資料が播磨産であり、水無瀬離宮に関連する建物に使用されていたのであれば、他の院政期の離宮と同様に、水無瀬離宮も造営に際して様々な国から瓦が供給されていた可能性が高くなる。ただし、調査で出土した瓦とこの瓦は法量の違いから同じ建物に葺くことはできない。そのため、本資料は水無瀬離宮関連の別の建物に葺かれていたものであろう。調査で出土した瓦は法量や出土点数から寝殿等の甍棟に使用されたことが想定できるが、本資料が本瓦葺きのように建物の屋根全面に葺かれたかどうかは今後の発掘調査成果を待たねばならない。

表1 軒平瓦観察表

単位: cm

No.	瓦当部					平瓦部			
	文様	高さ	瓦当厚	外区幅	外区高	全長	広端幅	狭端幅	高さ
1	半截花文	4.7	2.8	0.7	0.8	32.0	23.1	20.0	2.0

備考: 平瓦部凹面に粗い布目痕、凸面に無文タタキ痕が残る。



町指定文化財一覧

島本町文化財保護条例が平成 20 年 7 月 1 日に施行されました。

各分野から選出されました文化財保護審議会委員の方々に審議いただき下記の文化財が指定されています。

島本町指定文化財 第 1 号

名 称 :	水無瀬駒 関連資料
分 野 :	有形文化財
種 別 :	歴史資料
指定日 :	平成 21 年 4 月 14 日
所在地 :	広瀬三丁目
所有者 :	個人
員 数 :	4 1 水無瀬駒 小将棋（漆書・八十二才銘）一揃 合計 39 枚 飛車が欠落 2 中将棋（墨書・八十六才銘）一揃 合計 91 枚 歩兵が欠落 3 中将棋（漆書）残欠四枚 4 象戯図 一巻 附 象戯図 一巻

島本町指定文化財 第 2 号

名 称 :	神像（伝 聖徳太子七歳像）
分 野 :	有形文化財
種 別 :	美術工芸品(彫刻)
指定日 :	平成 22 年 4 月 5 日
所在地 :	字広瀬
所有者 :	若山神社
員 数 :	1 軀



島本町立歴史文化資料館館報 第3号
平成22年度版(2010)

発行 島本町教育委員会

〒618-8570

大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

TEL 075-961-5151

発行日 平成23年9月

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093

京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300

TEL 075-256-0961

